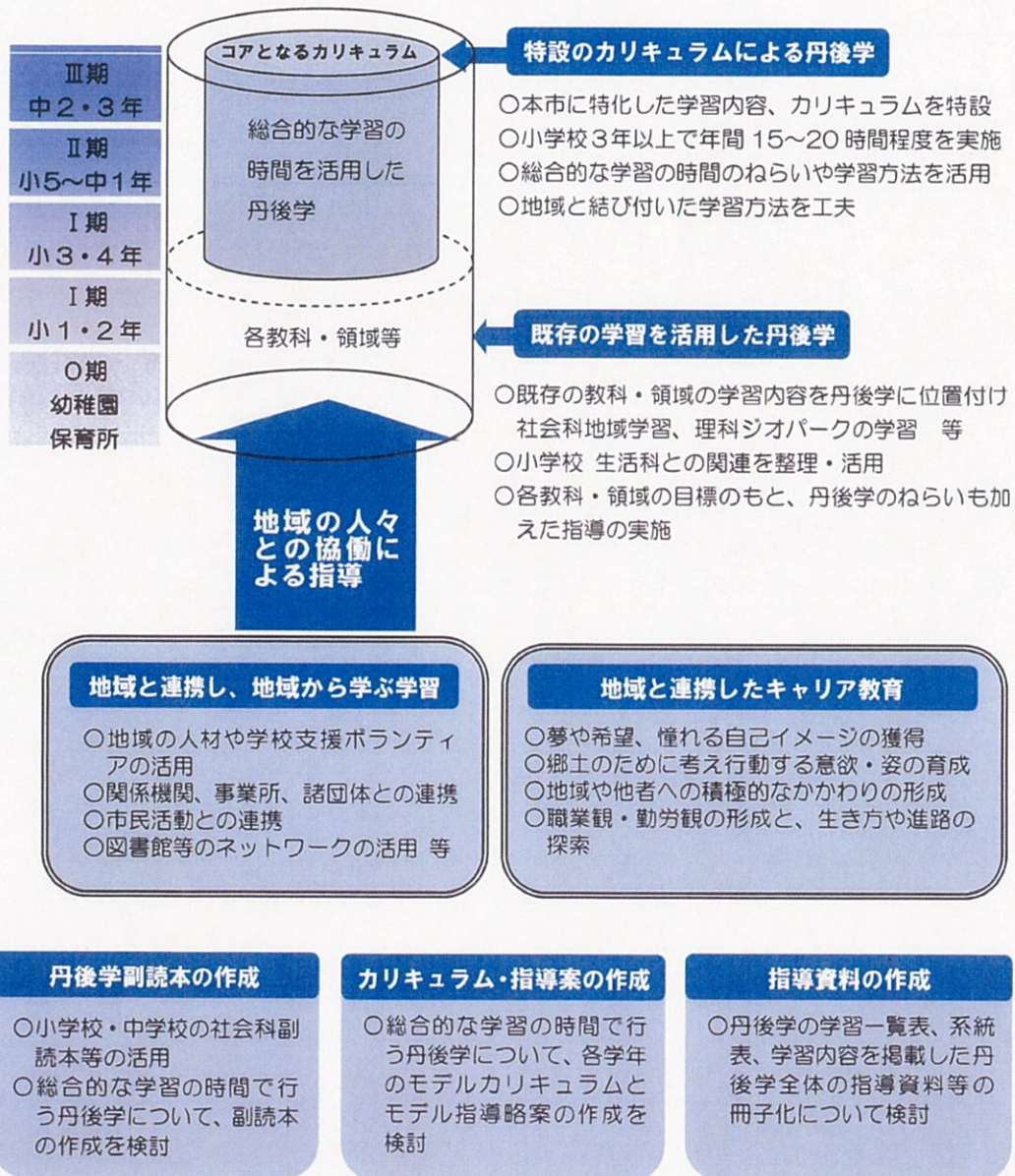


丹後学のグランドデザイン

「ひと・みず・みどり 市民総参加で飛躍するまち」京丹後市の学習を通して郷土への誇りと愛情を育て、地域を通して自己の生き方・あり方を考える。

京丹後市の **人** **環境** **文化** に学ぶ



丹後学のねらい

- 1 京丹後市に対する関心・愛着
身近な地域や京丹後市に対する関心や愛着を深め、ふるさとへの誇りを育てる。
- 2 京丹後市についての知識・理解
身近な地域や京丹後市の歴史や文化、自然、産業、現状と課題等に関する知識や理解を深める。
- 3 市民としての自覚、実践的な態度
身近な地域での体験や探究活動、地域に生きる人々とのかかわりを通して、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい京丹後市を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 4 問題解決を通じた生き方・あり方の探求
学び方やものの考え方を身に付けるとともに、自己の生き方やあり方を考え、夢と希望、将来への展望を育む。

丹後学の指導目標

観点、ねらい		I 期 ＜小1・2年＞	I 期 ＜小3・4年＞	II 期 ＜小5～中1年＞	III 期 ＜中2・3年＞
学習 テーマ	京丹後市の学習を通して、郷土への誇りと愛情をもち、自己の生き方 在り方を考える。	身近な地域に親しみ関わる。	身近な地域を知り、よさに気付く。	京丹後市を知り、体験し、理解を深める。	京丹後市と自分との結び付きを深める。
京丹後市 に対する関心・愛着	身近な地域や京丹後市に対する関心や愛着を深め、ふるさとへの誇りを育てる。	○自分と身近な人々や様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持つ。	○人々の生活や先人の働きに関心を持ち、地域に愛着を感じる。	○市の歴史や文化、産業等に関心を持ち、特色や課題を分析し、深く市の様子を知ろうとする。	○市の文化や伝統等に誇りを持ち、市の将来を考え地域の発展のために努力しようとする。
京丹後市 についての知識・理解	身近な地域や京丹後市の歴史や文化、自然、産業、現状と課題等に関する知識や理解を深める。	○地域の自然の素晴らしさに気付く。	○地域の地理的環境、人々の生活の変化、市の発展に尽くした先人の働きを知る。	○市の地理、歴史、産業について様々な観点から調べ、理解し、考える。	○市の文化や伝統、特色ある産業を理解し、市の生活に関する知識や技術を身に付ける。
市民 としての自覚、実践的な態度	身近な地域での体験や探究活動、地域に生きる人々とのかかわりを通して、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい京丹後市を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動する。	○自分や他者、京丹後市に関わる人々に関心を持ち、理解しようとする。	○地域社会と積極的に関わり、市についての探究や地域活動に積極的に取り組む。	○地域社会の一員としての自分の役割や行動について考え、実践しようとする。
問題解決 を通じた生き方 在り方の探求	学び方やものの考え方を身に付けるとともに、自己の生き方やあり方を考え、夢と希望、将来への展望を育む。	○身近な人々、社会、自然との関わりを深めることを通じて、自分のよさや可能性に気付く。	○調べたことや考えたことを自分なりに表現する。 ○地域社会に対する誇りと愛情を持ち、自分の夢や希望について考える。	○地域での問題解決や探究活動に主体的に取り組む、適切に表現する。 ○地域社会や人々とのかかわりの中で、自分らしさを発揮しようとする。	○望ましい勤労観・職業観を身に付ける。 ○地域社会の一員として自分の将来や生き方を考え、自己の個性を理解して主体的に進路を切り拓く。

各学年指導事項（全体計画）

	I期<小1・2年>	I期<小3・4年>	II期<小5～中1年>			III期<中2・3年>			
学習テーマ	身近な地域に親しみ関わる	身近な地域を知り、よさに気付く	京丹後市を知り、体験し、理解を深める			京丹後市と自分との結び付きを深める			
京丹後市に対する関心・愛着	○自分と身近な人々や様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持つ。	○人々の生活や先人の働きに関心を持ち、地域に愛着を感じる。	○市の歴史や文化、産業等に関心を持ち、特色や課題を分析し、深く市の様子を知ろうとする。			○市の文化や伝統等に誇りを持ち、市の将来を考え地域の発展のために努力しようとする。			
京丹後市についての知識・理解	○地域の自然の素晴らしさに気付く。	○地域の地理的環境、人々の生活の変化、市の発展に尽くした先人の働きを知る。	○市の地理、歴史、産業について様々な観点から調べ、理解し、考える。			○市の文化や伝統、特色ある産業を理解し、市の生活に関する知識や技術を身に付ける。			
市民としての自覚、実践的な態度	○集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動する。	○自分や他者、京丹後市に関わる人々に関心を持ち、理解しようとする。	○地域社会と積極的に関わり、市についての探究や地域活動に積極的に取り組む。			○地域社会の一員としての自分の役割や行動について考え、実践しようとする。			
問題解決を通じた生き方・あり方の探求	○身近な人々、社会、自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付く。	○調べたことや考えたことを自分なりに表現する。 ○地域社会に対する誇りと愛情を持ち、自分の夢や希望について考える。	○地域での問題解決や探究活動に主体的に取り組み、適切に表現する。 ○地域社会や人々とのかかわりの中で、自分らしさを発揮しようとする。			○望ましい勤労観・職業観を身に付ける。 ○地域社会の一員として自分の将来や生き方を考え、自己の個性を理解して主体的に進路を切り拓く。			
学習活動例 学習素材例	生活科の指導計画による	活動	小3年 農業・漁業・伝統文化等、校区の特色	小4年 地域の発展に尽くした先人 丹後ちりめん 1/2成人式	小5年 市の米作り	小6年 山陰海岸ジオパーク	中1年 市の観光 市の機械金属工業	中2年 職場体験学習 立志式	中3年 市の将来への提言
		校区に応じた素材例	○身近な地域の地理的環境、自然、社会事象の探究活動 ○地域行事の体験、調査 ○バス等での市内散策 ○地域のよいところ探し ○自分たちの地域を紹介 ○郷土の発展に尽くした人々 ○地域の自然や文化を守る人々		○京丹後市の農業に関する体験や探究活動 ○京丹後市の水産業に関する体験や探究活動 ○市の文化遺跡調べ ○丹後王国についての調査 ○京丹後市の通史学習 ○市の特色と結びついた観光に関する調査、イベントへの参加			○市の伝統文化の体験、調査 ○ボランティア活動 ○職場体験 ○市内在住者との交流会、生き方について考える講話会・懇談会 ○市の未来像の設計とパネルディスカッション ○自分の将来設計、卒業研究、卒業論文	

今後の「丹後学」のあり方について

～子どもが主役となる「丹後学」、子どもが高まる「丹後学」の実現に向けて～



丹後学

市内小中学校の「総合的な学習の時間」の中で行っている地域に関する学習。(年間:約20時間)
現在は、平成28年3月に発行された『「丹後学」モデルカリキュラム』を活用しつつ、各校が児童や地域の実態、あるいは、学園・学校の教育目標に沿った形で、地域の“人・環境・文化・産業”などから具体的なテーマを設定し、探究的な学びに取り組んでいる。

R4・11月

現行の『モデルカリキュラム』も、作成から約7年。
→(社会情勢の面)多くの変化が急速に進行
(学校教育の面)「資質・能力の育成」を主眼とする『学習指導要領』への改訂

「丹後学」での
学びのあり方も
アップデートが必要

現行「丹後学」モデルカリキュラム

【特徴】

- ・各期の指導目標や指導事項を明確に設定
- ・“学び方の習得”や“言語活動の充実”の視点を重視した指導計画案の提示

【成果】

- 様々な地域素材(人・環境・文化・産業)との出会い
- 各種メディアを活用した情報収集力の向上
- 自らの学びや考えを発信する経験の蓄積

【課題】

- △「知る・触れる」ことが目的化され、内容・活動が中心となった単元構想
- ※「丹後学」のねらい(郷土への誇りと愛情の育成/自己の生き方・あり方についての思考)に対する意識不足
- △「探究的な学習の過程」の量的・質的不十分さ

社会情勢の変化

【例えば】

- ・感染症の拡大・情報化の進行・価値の多様化
 - ・世界規模でのSDGsの取組推進
- ⇒【本市】R3・5月 国の「SDGs未来都市」選定
同・9月 「京丹後市SDGs未来都市計画」策定

「学習指導要領」改訂のポイント

- ・「資質・能力の育成」の目的化
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立

令和4年度 一部改訂

(令和5・6年度に活用)

Point! ① 「丹後学」のねらいの焦点化

ねらいを「①地域への愛着と誇りを育てる」と「②自己の生き方・あり方を考える」に絞り、各期の指導目標とともに提示
→【効果】「丹後学」に関わる構想・実施・評価の柱が明確に!

Point! ② 「探究の過程」を学習活動の中心に

ねらいの達成にふさわしい課題設定とその追究・解決を目的とした探究的な学習を実施
→【効果】地域の良さと課題が子どもたちの“自分事”に!

Point! ③ 「保幼小中一貫」の視点の導入

「丹後学」の学びと、幼児期の「遊び」を通じた総合的な学びや小1・2年生の「生活科」の学びとのつながりを再確認
→【効果】子どもが“学びの主体者”となる「丹後学」に!

Point! ④ 「SDGs」の視点の導入

地域素材というローカルなテーマに「SDGs」というグローバルな視点を重ねることで学びの質的向上を促進
→【効果】「丹後学」がより課題解決的・グローバルな学びに!

※「グローバル」=地域性を考慮しながら地球規模で考え、地域で行動すること



令和5・6年度 全面改訂

(令和7年度～活用)

R4年度改訂時のポイント①～④を引き継ぎつつ…

Point! ⑤ 「デザイン思考」・「STEAM教育」の導入

「丹後学」における課題解決・探究の過程に、「Kyotango Sea Labo」のMindSetや手法を活用

→【効果】“人”を真ん中に置いたクリエイティブな課題解決・目的達成型の学びを積み上げることで、子どもたちの自発性・創造性・判断力・問題解決力などを育てる「丹後学」に!

